

# 被災住民の声を受け止め、応え、伝えていく

## みやぎ生協の被災者懇談会に 120 人参加



仙南地域で開催された被災者懇談会の様子。

みやぎ生協では、「被災者懇談会」を9月21日～10月20日の日程で、仙台市太白区・同若林区・同宮城野区・同青葉区・多賀城市・石巻市・県北地域・仙南地域にある計8カ所の生協施設で開催し、仮設住宅の住民が合計で120人参加し

ました。この企画は、昨年に引き続き開催されたものです。

懇談会では、生協の事業に対する要望や行政に対する要望（再建計画を急ぐ声、消費税増税に対する不安、仮設住宅の設備に関する要望など）、メンタルヘルスケアを求める声などが出されました。

みやぎ生協では、それぞれの意見に対して、一つひとつ対策を提案しており、それをもとに、首長、県議・市議との懇談のテーマとする予定です。また、開催地の一部では、みやぎ生協が住民と市の担当部局をつなぎ、住民懇談会の開催も予定されています。

参加者の中からは、「このような会をまた開催してほしい」という意見が多く出されており、再度の開催が検討されているほか、被災者支援制度や法律に対しての理解が必要との意見も出されており、弁護士を講師に説明会も行なう予定です。



昨年の懇談会の様子は本誌5号に掲載。

# あったかく冬を過ごしてほしい

## コープあいつ、ちゃんちゃんこや使い捨てカイロを仮設住宅にお届け



ちゃんちゃんこを選ぶ、住民の皆さん。

12月5日、コープあいつ理事長の荒井信夫さん、役員室の新山敦司さんが、福島県双葉郡大熊町にある仮設住宅で避難生活をされている方に、ちゃんちゃんこ27枚、使い捨てカイロ約400個、バスタオル100枚をお届けしました。この取り組みは昨年に引き続き行なわれた

もので、昨年は相馬双葉漁協へ、今年は、移動販売の販売先として交流が始まった仮設住宅の方へのプレゼントとなりました。

ちゃんちゃんこは、コープかながわの組合員（和裁サークル）が手作りのもので、それぞれメッセージが添えられています。使い捨てカイロとバスタオルは、コープぎふの組合員からのプレゼントです。コープかながわの組合員とは、震災前から組合員活動を通じて交流があったことから、今回の取り組みとなりました。

ちゃんちゃんこは、60歳以上の住民がいる世帯に1枚ずつ配布しました。カラフルな柄と手作りの暖か

さが感じられるちゃんちゃんこに、「会津の冬は寒いから家事など行なう際に、大変助かります」などといった喜びの声が寄せられました。



ちゃんちゃんこには、1つひとつメッセージがつけられていた。